

平成29年7月31日

会員各位

鎌倉市医師会会長 井口 和幸  
学校保健担当理事 花岡 正人

「がん教育推進のための教材指導参考資料」について

標記の件につきまして、日本医師会 道永麻里 常任理事より、神奈川県医師会を通じ通知がございましたので、お知らせ致します。なお、鎌倉市医師会ホームページにもアップロードしてありますのでご確認ください

平成29年7月12日

郡市医師会  
学校保健担当理事 殿

神奈川県医師会  
理事 西山 貴郁

「がん教育推進のための教材指導参考資料」について

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より本会の各種事業にご理解・ご協力いただき厚く御礼申し上げます。

標記の件につきまして、日本医師会 道長 麻里 常任理事より周知依頼がございましたので、別添のとおりお知らせいたします。

学校の特別活動の時間などでがんについての授業を行うための教材として、がんの基礎知識、がん患者の経験談などの映像資料、各種スライド教材が文部科学省のHPから入手できます。

なお、平成28年5月11日(地Ⅱ25)において、「がん教育推進のための教材」と「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」も通知しておりますので、合わせてご確認ください。

つきましては、貴会会員および学校医の先生方にご周知いただきますようお願いいたします。

お問い合わせ先

保険医療学術課 担当:深澤  
横浜市中区富士見町3-1

TEL045(241)7000 FAX 045(241)1464

E-mail y-fukazawa@kanagawa.med.or.jp

29.7.13

鎌倉市  
医師会



事務連絡

平成29年5月26日

各都道府県・指定都市教育委員会学校保健主管課  
各都道府県私立学校主管課 御中  
附属学校を置く国立大学法人事務局

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課

「がん教育推進のための教材指導参考資料」について

文部科学省では、平成26年度に、学校におけるがん教育の在り方について報告書を取りまとめました。その中で、今後の検討課題として、映像を含めたわかりやすい教材等の開発とその活用方法等が示された指導参考資料を作成することが提案されたことから、平成27年度に文部科学省において、がん教育推進のための教材を作成し、このたび、学校において、当該教材を用いて授業をする際に活用するスライド資料等の指導参考資料を作成しました。

については、これらの資料を活用して学校におけるがん教育を推進するとともに、各都道府県教育委員会及び各都道府県私立学校主管課におかれては、域内の市町村教育委員会、所轄の学校法人等に対し周知されるよう併せてお願いいたします。

(ホームページURL)

・文部科学省HP「がん教育推進のための教材指導参考資料」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1385781.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm)

【本件担当】

文部科学省初等中等教育局

健康教育・食育課保健指導係

電話：03-5253-4111（内線：2918）

がん教育推進のための教材参考資料について

【1】小学校

- (1) 補助教材：教師用指導参考資料
- (2) 映像教材

- ①がん博士の「がんについての基礎知識」(6分35秒)
  - ②「がんと生きる」エピソード1：がん経験者男性(5分24秒)  
エピソード2：がん経験者女性(5分03秒)
- (3) ワークシート

【2】中学校・高等学校

- (1) 補助教材：教師用指導参考資料
- (2) スライド教材

- ①モジュール1：がんという病気 【15スライド】
- ②モジュール2：日本のがんの現状 【12スライド】
- ③モジュール3：がんの発生と進行 【16スライド】
- ④モジュール4：がんの予防 【13スライド】
- ⑤モジュール5：検診の意味 【12スライド】
- ⑥モジュール6：がんの治療で大切なこと 【11スライド】
- ⑦モジュール7：がん治療の支援 【14スライド】
- ⑧モジュール8：がん患者のおもい 【6スライド】
- ⑨モジュール9：がん患者とともに生きる社会 【13スライド】

## ● がん教育推進のための教材 指導参考資料

がん教育を実施する際の参考資料となるよう、文部科学省において作成した「がん教育推進のための教材」に対応したスライド資料を作成しました。

### がん教育推進のための教材 指導参考資料

#### 小学校版

- (1) [補助教材:教師用指導参考資料\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)
- (2) [映像教材「がん博士の「がん」についての基礎知識」\(6分35秒\)\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)
- (3) [映像教材「がんと生きる」エピソード1:がん経験者男性\(5分24秒\)\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)  
[映像教材「がんと生きる」エピソード2 :がん経験者女性\(5分09秒\)\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)
- (4) [ワークシート\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)  
[一式ファイルダウンロード\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)

#### 中学校・高等学校版

- [補助教材:教師用指導参考資料\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)
- [スライド教材モジュール1:がんという病気\(15スライド\)\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)
- [スライド教材モジュール2:日本のがんの現状\(12スライド\)\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)
- [スライド教材モジュール3:がんの発生と進行\(16スライド\)\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)
- [スライド教材モジュール4:がんの予防\(13スライド\)\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)
- [スライド教材モジュール5:検診の意味\(12スライド\)\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)
- [スライド教材モジュール6:がんの治療で大切なこと\(11スライド\)\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)
- [スライド教材モジュール7:がん治療の支援\(14スライド\)\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)
- [スライド教材モジュール8:がん患者のおもい\(6スライド\)\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)
- [スライド教材モジュール9:がん患者とともに生きる社会\(13スライド\)\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)
- [一式ファイルダウンロード\(※外部のウェブサイトへリンク ZIPファイルが開きます\)](#)

#### お問合せ先

初等中等教育局健康教育・食育課

(初等中等教育局健康教育・食育課)

<1>

## 小学校版

# がん教育プログラム

## 補助教材

本プログラムは健康教育の一環として、  
がんについての正しい理解と、  
がん患者や家族など、がんと向き合う人々に対する  
共感的な理解を深めることを通して、  
自他の健康と命の大切さについて学び、  
共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を  
図ることを目的としています。

### 本教材を活用するにあたっての留意事項

命についての授業になります。児童の家庭状況や心理面の配慮が必要です。  
本誌P.10の留意事項を、必ずご確認ください。

日本人の死因の第1位はがんです。3割近くの方ががんで亡くなっています。  
 そして、日本人の2人に1人は、一生のうちに何らかのがんになると推計されています。

がんは、命にかかわる病気ですが、現在では、早期に発見し、適切に治療をすれば、  
 治らない病気ではなくなってきました。

日本の未来を担う子どもたちに、がんの正しい知識や、生きること、  
 命を大切さを理解してほしいと願っています。

## プログラムのねらいと特長

がんをテーマとして教育で扱う際に最も大切なことは、「生きている限り誰にでも起こりうる病気や死といかに向き合うか」という正解のない問いに対して考えることを通して、「健康と命」について考えることです。

本プログラムでは、がんについて基本的なことを理解するとともに、児童が主体的に考え、行動する力を育成することを目的とし、3つの視点からのアプローチ手法を組み込みました。

### がん教育

がんを扱うことを通じて、ほかの様々な疾病の予防や  
 望ましい生活習慣の確立を含めた健康教育の充実を図る。

がんの正しい知識を  
 理解する

生きること、  
 命の大切さを理解する

がんについて基本的なことを理解するとともに、「健康と命の大切さ」について、  
 児童が主体的に考え、行動する力を育成することを目的に  
 3つの視点からアプローチします。

子どもの実態を  
 よく理解している  
 教員による  
 進行とワーク

がんについて  
 正しい知識を提供する  
 医療関係者監修映像

がんと向き合い、  
 今を生き生きと生きる  
 がん経験者の  
 インタビュー映像

## 提供教材

### 補助教材



本誌  
 ※ねらい・授業進行方法  
 などを紹介しています。

### 映像教材

映像教材①  
 「がん博士の『がんについて  
 の基礎知識』」  
 がんについての知識を伝える。



映像教材②  
 「がんと生きる」  
 がん患者の思いや考えを伝える。



※2名のエピソードのうち、どちらか  
 選択してご使用ください。

### ワークシート



ポスター枠（縦書き、横書き）

## 小学校版プログラムの概要

対象/関連教科 小学校高学年~/特別活動・道徳

時間 基本授業 (45分)  
発展授業 (45分~)

- ねらい
- ・がんについての正しい知識「予防できること」「早期発見によって治療する可能性が高いこと」を理解する。
  - ・がん患者による「がんを経験したことによる『生きる』ことへの思い」や、「がんと向き合いながら生き生きとした日常生活を送る」ことを中心とした「健康と命の大切さ」について考える。

※学校医・養護教諭や、実際のがん経験者の協力によって、インタビュー・講話が可能な場合は、映像教材を使わずに、直接話を聞く場面を位置づけることで、学習がより深まります。

### プログラムの構成

#### 基本授業 がんを知る レクチャー編 (45分)

導入 (7分)

- 教員
- ・がんについてどのような病気だと思っているかを問い、がんについてどのようなイメージをもっているのが確認する。
  - ・授業のねらいを伝える。

がんについて正しく学び、自分や大切な人のために自分ができることを考えよう。

展開① (15分)

- 教員
- ・がんについて正しい知識を得ることの重要性を喚起する。
  - ・がんについての知識を伝える。

映像教材①「がん博士の『がんについての基礎知識』」  
がんについての知識、特に「健康的な生活習慣による『予防』」と、「定期検診による『早期発見』」の重要性を伝える。

医療関係者 ※学校医・養護教諭など、医療関係者による講座を位置づけることで、より深い学びが可能です。

展開② (20分)

- 教員
- ・がん患者の経験を伝える。

映像教材②「がんと生きる」  
がんをどのように受け止め、乗り越えたのか。生き生きとした生活を送る現在の姿には、どのような考えがあるのかを伝える。

がん経験者 ※実際のがん患者を招いてのインタビューや講話を位置づけることで、より深い学びが可能です。

まとめ (3分)

- 教員
- ・授業をふりかえり、これからの生活につなげさせる。

#### 発展授業 大切な人のために自分ができることを考える ワーク編

周りの人にどう伝えるかなどの考える活動を通して、学びを主体的・対話的にふりかえり、より深い学びにつなげていくことをねらいにしています。基本授業との続きで実施されることを推奨します。

展開

- 教員
- ・基本授業の学びをふりかえらせる。
  - ・学んだことをさらに深めるために、以下のワークを行わせる。

大切な人の命のために、がんについて伝える資料をまとめよう。

- ・つくった資料を、グループや全体で発表させ、考えを共有させる。
- ・基本授業から連続した児童の考えの変容を評価し、「健康と命の大切さ」を伝える。

がん教育の実施にあたり、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深めるためには、がんの専門家（外部講師）との連携が効果的です。

「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」を参照のうえ、  
学校の実情に合ったがん教育を推進してください。

外部講師を用いたがん教育については、本誌に一部抜粋して紹介していますが、詳しくは文部科学省「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」をご参照ください。

外部講師を用いたがん教育ガイドライン

検索

## 基本方針

地域や学校の実情に応じて、学校医、がん専門医、がん患者、がん経験者など、それぞれの専門性が生かせるよう指導の工夫を行い、教員と連携を密に図りながら実施する。

### ●実施の手順（例）

	学校内	外部講師との調整
①企画	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健主事など中心となる教員を決め、がん教育を企画する。（テーマ、時期、講師、実施形態など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関に講師の派遣を依頼する。（事前打診、依頼状送付、打ち合せ日程調整）</li> </ul>
②打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の共通理解を図り、内容について話し合う。</li> <li>教科書などの資料を準備し、講師予定者との打ち合わせに備える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師予定者と指導内容、指導方法について打ち合わせる。（日程、役割分担、準備物、留意事項の確認）</li> </ul>
③準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童への配布資料や視聴覚機材を準備する。</li> <li>必要に応じて事前学習・事前指導を行う。また、保護者、児童への事前調査を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料や視聴覚機材の最終確認をする。</li> <li>講師と学校の役割分担を確認をする。</li> </ul>
④外部講師を活用したがん教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいの説明、講師の紹介を行う。</li> <li>がん教育を実施する。</li> </ul>	[がん教育を実施する]
⑤実施後の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連教科と結びつけた指導を行う。</li> <li>児童から質問、感想を集める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師に感想を尋ねる。</li> <li>児童の感想をまとめ、指導上の課題や実施後の指導について話し合う。</li> </ul>
⑥評価まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果と課題について担当者で話し合い、次年度に生かす。</li> <li>結果を教職員で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師および講師の所属先に礼状を出す。</li> </ul>

### ●実施のポイント

- 学校が主体となって企画・運営を行う。
- 授業を担当する教員だけでなく、全ての教職員の共通理解のもとに進める。
- 保護者への広報、啓発活動を同時に行うと効果的。関係者、関係機関と継続的に連携する。
- 年度当初の職員会議等で外部講師を活用したがん教育の開催予定を周知するなど、情報を共有する。

## 実施上の留意点

### ●外部講師の選定

□健康と命の大切さをねらいとした場合…

医療関係者だけでなく、がん患者やがん経験者による指導も効果的であると考えられる。

□がんに関する科学的根拠に基づいた理解をねらいとした場合…

学校医、がん専門医（がん診療連携拠点病院の活用を考慮）など、医療従事者による指導が効果的と考えられる。

### ●運営上の留意点

□本教材を活用した授業にあたっての留意事項（P.10参照）を講師と事前に共有する。

□授業計画の作成にあたっては、授業を企画する教員が主体となるよう留意する。

□がん患者・経験者の体験談は貴重であるが、家族に経験者がいる場合などには、強い印象を与える可能性があることに留意する。

□教員と外部講師は、事前・事後に打ち合わせを行い、授業のねらいを共通理解することが重要である。

□各教員が実施する授業と、外部講師の協力を得て実施する授業や学校行事等を関連させることで、より教育効果を高めることができる。

### 依頼を受けた外部講師の方へ

#### ●内容と指導のポイント

講師が伝えたい内容で一方的に授業を構成したり、児童が理解できない難解な言葉（専門用語）を用いたりせず、対象となる児童の理解力など、発育・発達段階を十分考慮し、わかりやすい言葉づかいや内容を心がけましょう。

□わかりやすい例を示すと学習効果が高まります。

□怖さを強調するのではなく「自他の健康と命の大切さを主体的に考えることができるようにすることが充実した人生につながる」という積極的なメッセージが含まれることを念頭に置きましょう。

時間	学習活動	指導上の留意点など
導入 7分	<p>1. がんに対してどのようなイメージをもっているか確認し、ねらいを捉える。</p> <p>※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。</p> <p>1) がんと自分との関わりを捉えさせる。</p> <p>① 児童にがんについてどのような病気だと思っているかを問いかける。</p> <div data-bbox="300 524 1158 600" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>② 問いかけ 「がん」とは、どのような病気だろう？</p> </div> <p>② 知っていることをワークシートに記入させ、グループで考えを共有する。 <b>ワークシート 1</b></p> <p>③ 何人かの児童に発表させ、全体で共有する。</p> <p>④ がんは、命にかかわる病気であるが、絶対に治らない病気ではないこと、正しい知識を学び、自分や大切な人を守ることを考えていくことの重要性を伝える。</p> <p>2) 授業のねらいを伝える。</p> <p>① ねらいを伝える。</p> <div data-bbox="300 864 1158 940" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ねらい がんについて正しく学び、自分や大切な人のために自分ができることを考えよう。</p> </div>	<p>※がんを題材にした授業では、必ず以下のことを念頭におくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にがん罹患している人をもつ児童がいるかもしれないこと</li> <li>・がん患者の人権に配慮し、正しい知識を伝えることを通して、がんとかん患者への偏見や差別を無くすこと</li> </ul>
展開 ① 15分	<p>2. がんについて理解する。</p> <p>1) がんについて、正しい知識を得ることの重要性を感じさせる。</p> <p>① がんについての正しい知識への関心を高めるクイズを出題する。</p> <p>【クイズ1】</p> <div data-bbox="300 1137 1158 1214" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>② 問いかけ 「〇〇がん」と、たくさんの種類があるけれど、あなたはいくつ知っているだろう？</p> </div> <p>☆解説・・・児童の答えを板書し、その部位を児童自身に触らせるなどして、体のいろいろな部位ががんになることを確認し、自分に引きつけて捉えさせる。また、「血が出るような切り傷や骨折と一緒に？違う？」などとさらに問いかけ、がんの原因について興味・関心を高める。</p> <p>【クイズ2】</p> <div data-bbox="300 1375 1158 1451" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>② 問いかけ がんの対策、あなたは知っていますか？</p> </div> <p>☆解説・・・児童の考えを引き出した後、「手術をすれば、がんを取り除くことができるけれど、ならないのが一番だね。どうすればよいか知っている？」などと問いかけたり、「あなたは今、がんにならない対策を何かしている？」と問いかけたりして、正しい知識を得ることの必要性を感じさせる。</p> <p>2) がんについての知識を伝える。 <b>ワークシート 2</b></p> <p>① 正しい知識を得るために映像教材を視聴することを伝える。 また、映像教材を視聴しながら、わかったこと、大切だと感じたことをワークシートに記入するよう伝える。</p> <p>② 映像教材を視聴する。 <b>医療関係者との連携でより深い学びが可能です</b></p> <div data-bbox="300 1756 976 1796" style="border: 1px solid blue; padding: 2px;"> <p>映像教材①「がん博士の『がんについての基礎知識』」(6分35秒)</p> </div> <p>③ ワークシートに記入した内容を、グループで共有させる。</p> <p>④ 何人かの児童に発表させ、全体で共有する。</p> <p>⑤ 映像教材①の内容(質問④)を参考に、がんについて考えるときに大切なことをおさえる。</p> <div data-bbox="300 2002 1158 2078" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>がんは、生活習慣をととのえる『予防』と、検診などによる『早期発見』が重要である。</p> </div>	<p>展開①の映像教材の部分は、学校医あるいは養護教諭が説明すると、より効果的に学びを深めることができます。</p> <p>●がんの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・胃がん、大腸がん、肺がん、前立腺がん、乳がん、肝臓がん など。</li> <li>(中・高等学校向け「がん教育推進のための補助教材」に資料があります。本誌P.11を参照してください)</li> </ul> <p>●映像教材①の内容は、P.8を参照してください。</p> <div data-bbox="1209 1800 1465 2020" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>※がんには、また原因がよくわかっていないものが多い。がん患者の全てが、生活習慣が悪かったためがんになったという誤った印象を与えないよう注意する。</p> </div>

時間	学習活動	指導上の留意点など
展開② 20分	<p>3.がん患者の思いを理解する。</p> <p>1)がん患者の経験を伝える。 <span style="float:right">ワークシート 3</span></p> <p>①がん患者の経験から学ぶために映像教材を視聴することを伝える。 また、映像教材を視聴しながら、心に残ったことをワークシートに記入するよう伝える。</p> <p>②映像教材を視聴する。 <b>がん患者との連携でより深い学びが可能です。</b></p> <p>映像教材②「がんと生きる」(約5分)</p> <p>※2名のエピソードのうち、どちらかを選択して視聴させる。</p> <p>③ワークシートに記入した内容を、グループで共有させる。</p> <p>④何人かの児童に発表させ、全体で共有する。</p> <p>⑤がんを乗り越える強さ、また、生きることについて大切なことをおさえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>例) がんを受け止め、それを乗り越えていく強さ、生き生きとしている様子が感じられたね。また、自分のためだけでなく、支えてくれた家族、ほかのがん患者のために、力を尽くしていらっしゃるという今の生き方からは、「命を大切する」ということを学ぶことができるね。最後のメッセージ、「自分の人生、自分の体を大切に」という言葉、しっかりと受けとめていこう。</p> </div> <p>※展開②のあとに「発展授業」の内容を組み合わせると学びが生かして効果的です。</p>	<p>展開②の映像教材の部分は、実際のがん患者を招いての講話やインタビューにすると、より効果的に学びを深めることができます。</p> <p>●映像教材②の内容は、P.8を参照してください。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>※「どうしてがんになったのか」というような原因探しや、「もう死んでしまうの?」「怖い」という感情を生起させるのではなく、「命を大切に」「生き生きと前向きに生きる」姿を伝えるようにする。</p> </div>
まとめ 3分	<p>4.学びをふりかえり、これからの生活につなげる。</p> <p>1)授業を通した児童の考えの変容を評価し、健康と命の大切さを伝える。</p> <p>①教員からのメッセージを語る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>例) 命にかかわる病気、がんについて学び、自分や大切な人が生きるということについて、考えたね。がんには負けない体、健康な体をつくるのが大事だね。そして、命は、何よりも大切なこと。自分と、そして全ての命を、大切にしてほしい。</p> </div> <p>2)これからの生活につなげる。(宿題) <span style="float:right">ワークシート 5</span></p> <p>①これからの生活で大切にしていきたいと考えること、お家の人に伝えることを宿題で、ワークシートに記入してくるように伝える。</p>	<p>ワークシートには、宿題として、プログラムの学びをお家の人に伝えるワークを用意しました。児童が自分と大切な人の命について考えを深めたことが、多くの立場から価値付けられることをねらっています。児童の家庭環境に配慮しながら、ご利用ください。</p>

【発展授業】

## 大切な人のために自分ができていることを考えよう！【1時限(45分)～】

周りの人に伝える内容を考える活動を通して、学びを主体的・対話的にふりかえり、より深い学びにつなげていくことをねらいにしています。基本授業との続きで実施されることを推奨します。

1)基本授業での学びをふりかえさせる。

- ①学習前のがんに対するイメージと、今の自分の考えとを比較させる。
- ②学んだ知識、予防や早期発見と治療ができること、もし罹患しても生き生きと生きていくことが大切であることを確認し、正しい知識・情報の重要性和必要性を伝える。

2)理解した知識をさらに深める。

- ①ワークの概要を説明する。

**Q ワーク** 大切な人の命のために、がんについて伝える資料をつくろう。

これまでに学んだ情報を使って、がんについて伝える資料を作成する。  
 ※資料は、ポスターや標語、作文、レポートなど学習の目的に応じて決めてください。  
 (ポスターを作成される場合、ポスター枠をご利用ください)

- ②作成した資料を、グループで共有させ、何人かの児童に発表させ、全体で共有させる。
- ③作った資料を持ち帰り、学習したことをお家の人や、大切な人に話をするように伝える。

3)これからの生活につなげる。(※基本授業「まとめ」参照)

- ①これからの生活で大切にしていきたいと考えることを、ワークシートに記入させる。

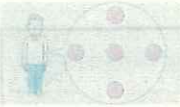







●学習前のイメージとの比較

・がんについて学習する前は、「怖い」「治らない」というようなイメージが多かったことが予測される。しかし、正しい知識を得れば、必ずしも悲観的になる必要はないこと、自分にできることがあることを確認し、学習につなげる。

※児童にとって大切な人が、喫煙や過度の飲酒をしている場合でも、「悪い生活習慣をしている人を攻撃」するのではなく、「良い生活習慣を勧める」ようアドバイスをする。


参考資料【映像教材】

映像教材①「がん博士の『がんについての基礎知識』(6分35秒)」


 	<p><b>質問① どうしてがんになるの？</b></p> <p>「どうしてがんになるのか」について、説明しよう。私たちの体は、たくさんの細胞でできている。この細胞は、同じものをコピーしながら新しくなっていくんだけど、まれに、別の細胞ができてしまう。それが、がん細胞になることがあるんだ。がん細胞は、どんどん増えていく。そうすると、正しい細胞が正しく働かなくなってしまう。その病気のことをがんと言うんだ。私たちの体はたくさんの細胞からできているのだから、がんという病気は誰もがなる可能性がある病気なんだよ。</p>
 	<p><b>質問② がんにならないためには、どうすればいいの？</b></p> <p>原因の一つには、たばこ。そして、お酒の飲みすぎ。さらに、生活習慣の乱れ。お肉を多く食べて、野菜はあまり食べなかったり、塩分を取りすぎたりしてしまうなど。また、運動不足や食べ過ぎによる太りすぎ、反対に、やせすぎもよくない。がんになる可能性が高くなってしまおう。がんの原因をつくらない予防のためにも、健康によい生活習慣を送ることが大切だ。</p>
 	<p><b>質問③ がんは、なおすことができるの？</b></p> <p>がんがまだ小さいうちに治療すれば、ほとんどの人のがんを治すことができるようになったんだ。だから、小さいうちに、がんを見つけることが大切。でも困ったことに、がんが小さいうちは自覚症状がなくて、自分自身では気づきにくい。気づいたときにはすでにがんが大きくなってしまっていることが多いんだ。だから、「早期発見」と言って、できるだけ小さいうちに早く見つけることが大切なんよ！</p>
 	<p><b>質問④ どうすればがんを早く見つけられるの？</b></p> <p>がんかどうかを調べるのは、まず、何の症状がなくてもお医者さんに定期的に診てもらって、「がん検診」が必要なんだ。検診では、肺や胃など、体のそれぞれの場所に合った検査をして、自分では気づかない小さな異常を見つけてくれることができるんだ。がんは、早く見つければ、ほとんどが治る可能性の高い病気。対策には、まず予防。健康によい生活習慣。そして、もう一つが、早期発見のためのがん検診。この2つをよく覚えておいて、実行してほしい。そしてみんなの大切な家族にも、伝えてほしい。元気に毎日を過ごすためには、健康が大切。健康のためにできることを今から始めよう。</p>

映像教材②「がんと生きる」

長谷川一男さんのエピソード(5分24秒)

	<p>がんとわかったときは、もう頭が真っ白ですね。当時、小学校2年生の息子と幼稚園年長の娘がいたので、子どもにどう伝えればいいのか…。4日間一睡もしなかったのを覚えています。自分が治療に向き合うきっかけとなったのは、一人のお医者さんの「可能性はゼロじゃない。ゼロでないんだったら戦うべきじゃないか。」という言葉。それから、子どもたち、妻のためにも、納得いくまで先生と話し合っ治療法を決め、治療を進めていきました。</p> <p>私が今、一番大切にしているのは、私が経験したことを、がんを患う人たちに共有していくことです。みんなで話し合う場をつくって、病気に関する勉強会を開いています。そこに、先生を呼んで、相談しながら正しい情報を受け取り、情報発信をしています。みんなで励まし合う場をつくっているのです。</p> <p>みなさんには、「病気になっても自分の人生なので後悔しないように生きる。」ということを強く伝えたいです。自分の人生を大切に、後悔しない、そういう生き方をしてほしいと思っています。</p>
---	--

倉本久恵さんのエピソード(5分03秒)

	<p>がんとわかったのは検診でした。とてもショックで、残してしまう家族への心配が1番大きかったです。でも、毎日のお見舞いに来てくれた家族の支えと励ましで、治療をがんばることができました。</p> <p>今はパン屋で仕事をしています。毎日朝はすごく早いし、パン屋の仕事はすごく力を使う肉体労働ですが、やっぱり自分がやりたかった仕事に就けて本当に良かったと、毎日充実しています。</p> <p>今、大切にしていることは、家族のためにバランスのよい食事を作って、家族が健康であるように努めることです。今まで心配をかけた分、家族には健康でいてほしいと考えています。毎日家族と一緒に笑っている時がとっても幸せです。</p> <p>健康であれば自分の夢も叶います。バランスのいい食事をとって、規則正しい生活をして、毎日過ごしてください。そして、家族を大切にしてほしいと思います。</p>
---	---



●児童の心理面について

家族や身近な人ががんの治療中であつたり、がんによって亡くなつたりしている児童への心理面の配慮が必要です。

事前調査を行うなどして、実態を把握し、授業内容について事前に話をしておくなど、必要に応じた対応をしてください。

また、がんの原因は解明されていない部分もあり、わかっている原因については対策をとれますが、現在の科学ではがん罹患する可能性をゼロにできないため、がん患者を支える社会の必要性に気づかせるという学習の方向性が重要です。

●小児がんについて

本プログラムで扱うがんは「成人のがん」であり、「小児がん」について学ぶものではありません。特に、小児がんの治療中あるいは既往歴のある児童がいる場合は、事前に当該児童の保護者にも授業実施にあたって注意すべき点を確認しておくなどの配慮が必要です。

●生活習慣病とがんと関連性について

規則正しい生活習慣によって、将来がんになる危険性を低くすることができますが、絶対にがんにならないわけではありません。

**※がんには、まだ原因が判明していないものもある。全てのがん患者が、生活習慣が悪かったという誤った印象を与えないよう注意する。**

●喫煙や飲酒について

未成年の喫煙や飲酒は、法律で禁じられていることを説明するだけでなく、がんやその他の病気の予防のためにも、成人になつても喫煙や過度の飲酒を控える気持ちを育てる必要があります。

●がん検診について

がん検診によって早期にがんを発見することができ、治る可能性が高くなります。

体に不調がなくても定期的に検診を受け、体に不調がある場合は、無理や我慢をせず、病院で診てもらうことが大切です。

●指導する予防法について

本プログラムで紹介するがんの予防については、現状で推奨できる科学的根拠に基づいたものについて示しています。しかし、現在もがんに関する研究は進められており、今後がんに関連する情報が更新されることが予想されます。そのため、常に正しい情報の収集・活用が大切です。

●文部科学省「がん教育推進のための教材」



学校においてがん教育を実施するに当たり、効果的な指導が行えるよう作成された補助教材です。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1369992.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369992.htm)

●株式会社キャリアリンク「がん教育プログラム（中学校・高等学校版 補助教材）」  
(文部科学省委託事業)

上述した「がん教育推進のための教材」に対応したスライド教材です。

全9モジュール分のスライド教材が用意されています。

スライド				
1	がんという病気		6	がんの治療で大切なこと
2	日本のがんの現状		7	がん治療の支援
3	がんの発生と進行		8	がん患者のおもい
4	がんの予防		9	がん患者とともに生きる社会
5	検診の意味			

●文部科学省「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」

学校において、医師等の外部講師ががん教育を実施するに当たり、最低限留意すべき事項等を示すガイドラインです。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1369991.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369991.htm)

●国立がん研究センターがん対策情報センター「がん情報サービス」

<http://ganjoho.jp/>

本プログラム作成にあたっては、作成委員会を設置し、アドバイスおよび監修をいただきました。

作成委員会メンバー一覧（五十音順）

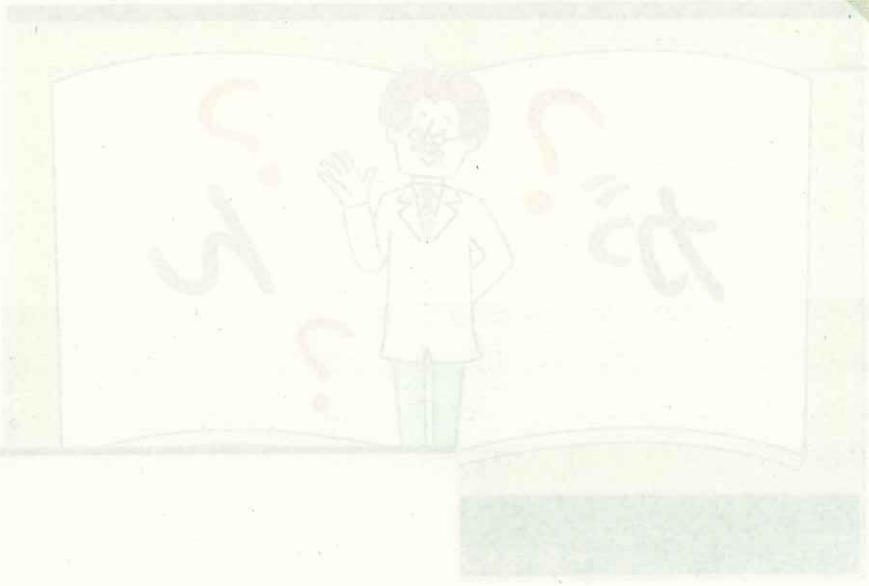
植田 誠治氏（聖心女子大学 文学部教育学科教授）

塚崎 好起氏（岡山県教育庁 保健体育課 健康・安全教育班 指導主事）

中川 恵一氏（東京大学医学部附属病院 放射線科准教授、緩和ケア診療部長(兼任)）

林 和彦氏（東京女子医科大学 がんセンター長 化学療法・緩和ケア科教授）

広野 光子氏（がんを明るく前向きに語る・金つなぎの会（自助努力の患者会）代表、ジャーナリスト）



平成29年3月

株式会社キャリアリンク  
(文部科学省委託事業)



児童

の書き  
きすめ期



学  
校



〈3〉 映像教材 がんと生きる エピソード① がん経験者男性(5分24秒)



<4>

**がんを学ぼう！あなたと大切な人の命のために**

年 組 番 名前

**1 「がん」とは、どのような病気だろう？**

友達にどんなことが心に届いたかな？色を変えて添削して書こう。

**2 「がん」について、正しく学ぼう。**

がんは、命にかかわる病気だけど、正しい知識があって、しっかり対応すれば、治せる病気なんだよ。がんについて、よく聞かれる4つの質問に、わたしが答えるよ、いっしょに勉強していこう！



説明を聞き、キーワードに当てはまる言葉を書こう。また、メモには、わかったこと、大切だと思ったことを書こう。

<p><b>質問①</b> どうしてがんになるの？</p> <p>キーワード</p> <p>健康によい</p> <p>習慣が大切！</p> <p>メモ</p>	<p><b>質問②</b> がんにならないためには、どうすればいいの？</p> <p>キーワード</p> <p>健康によい</p> <p>習慣が大切！</p> <p>メモ</p>
<p><b>質問③</b> がんは、なおすことができるの？</p> <p>キーワード</p> <p>発見が大切！</p> <p>メモ</p>	<p><b>質問④</b> どうすればがんを早く見つけられるの？</p> <p>キーワード</p> <p>健康によい生活習慣</p> <p>早期発見には</p> <p>検診が大切！</p> <p>メモ</p>

友達にどんなことをメモしたかな？色を変えて添削して書こう。

**3 「がん」になった人の話を聞こう。**

今、どのような思いで、何を大切にしているのだろうか。



友達にどんなことが心に届いたかな？色を変えて添削して書こう。

**4 大切な人の命のために、「がん」について伝える資料をまとめよう。**

わたしの説明や、がんになった人の方を参考に、いいものをつくってほしいな！



**5 これからの自分の毎日について考えよう。**

学んだことをふりかえり、これから、どんなことを大切にしていきたいと考えるか書こう。

**宿題** がんについて学んだことを、お家の人に伝えよう。

お家の人といっしょに、毎日の生活をふりかえり、学んだことを説明しよう。

お家の人からコメントをもらおう。

<p><b>食事</b>は-</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お肉と野菜のバランスは大丈夫？</li> <li>塩辛いものはかり食べていない？</li> <li>牛をかく漬物は、一週間に何回してる？</li> </ul>	<p><b>20歳以上</b>の人は-</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>たばこを吸っている？</li> <li>お酒は、一週間にどれくらい飲む？</li> <li>がん検診を定期的に受けている？</li> </ul>
---	---

ふいつしよに生活をふりかえろう！

がんには、まだ原因が不明でないものもあります。全てのがん患者が、生活習慣が悪かったからがんになったわけではありません。





## 学校におけるがん教育の在り方について（報告）

### 1 学校におけるがん教育を取り巻く状況

近年、都市化、少子高齢化、情報化、国際化などによる社会環境や生活環境の急激な変化は、国民の心身の健康にも大きな影響を与えており、ストレスによる心身の不調などのメンタルヘルスに関する課題、アレルギー疾患、感染症など、新たな課題が顕在化している。その中でも、生涯のうち国民の二人に一人がかかると推測されるがんは重要な課題であり、健康に関する国民の基礎的教養として身に付けておくべきものとなりつつある。

また、がん対策基本法（平成 18 年法律第 98 号）の下、政府が策定したがん対策推進基本計画（平成 24 年 6 月）において、「子どもに対しては、健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識をもつよう教育することを目指し、5 年以内に、学校での教育の在り方を含め、健康教育全体の中で「がん」教育をどのようにするべきか検討し、検討結果に基づく教育活動の実施を目標とする」こととされている。

このようながん教育をめぐる状況を踏まえ、昨年度、公益財団法人日本学校保健会に検討会を設置（平成 25 年度文部科学省補助事業）し、がん教育の在り方等について検討してきたところであるが、更なる充実を図るため、平成 26 年度から国においても新たに「がんの教育総合支援事業」を立ち上げ、有識者による「がん教育」の在り方に関する検討会を設置するとともに、モデル校等で多様な取組を実施し、それらを踏まえつつ、今後のがん教育の推進に向けて検討することとした。

### 2 学校におけるがん教育の基本的な考え方

学校における健康教育は、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成することを目指して実施されている。前述のようながんをめぐる状況を踏まえると、学校における健康教育においてがんを取り上げた教育を推進することは健康教育を推進する上で意義のあることであると考えられる。近年、疾病構造の変化や高齢社会など、児童生徒を取り巻く社会環境や生活環境が大きく変化してきており、健康教育もそれに対応したものであることが求められる。特に、日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であると指摘されている。学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようにすることが求められている。

以上の状況を踏まえ、学校においてがん教育を推進する際には、「健康と命（いのち）の大切さを育む」という視点で本報告書を参考とした取組が推進されることを期待する。

なお、「がん教育」は、がんをほかの疾病等と区別して特別に扱うことが目的ではなく、がんを扱うことを通じて、ほかの様々な疾病の予防や望ましい生活習慣の確立等も含めた健康教育そのものの充実を図るものでなければならない。また、例えば、専門家や患者・経験者の協力の下、地域の実情等に応じて、がん以外の様々な疾病や健康に関する問題等を通じて学ぶことも意義のあることであると考えられ、各学校・教育委員会等の主体的な取組が期待される。

また、取組の推進に当たって、今後は、更に国や地方公共団体における学校保健担当部局と地域保健担当部局の連携を強化していく必要がある。

### (1) がん教育の定義

がん教育は、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通じて、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である。

### (2) がん教育の目標

#### ①がんについて正しく理解することができるようにする

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心を持ち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。

#### ②健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

### (3) がん教育の具体的な内容

がん教育において取り扱う具体的な内容については、例えば以下のようなことについて学ぶことが考えられる。

#### ア がんとは（がんの要因等）

がんとは、体の中で、異常細胞が際限なく増えてしまう病気である。異常細胞は、様々な要因により、通常の細胞が細胞分裂する際に発生したものであるため、加齢に伴いがんにかかる人が増える。また、数は少ないが子供がかかるがんもある。

がんになる危険性を増す要因としては、たばこ、細菌・ウイルス、過量な飲酒、偏った食事、運動不足などの他、一部のまれなものではあるが、遺伝要因が関与するものもある。また、がんになる原因がわかっていないものもある。

## イ がんの種類とその経過

がんには胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、前立腺がんなど様々な種類があり、治りやすさも種類によって異なる。また、がんによる症状や生活上の支障なども、がんの種類や状態により異なっている。病気が進み、生命を維持する上で重要な臓器等への影響が大きくなると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることもある。

## ウ 我が国のがんの状況

がんは、日本人の死因の第1位で、現在(2013年)では、年間約36万人以上の国民が、がんを原因として亡くなっており、これは、亡くなる方の三人に一人に相当する。また、生涯のうちがんにかかる可能性は、二人に一人(男性の60%、女性の45%(2010年))とされているが、人口に占める高齢者の割合が増加してきていることもあり、年々増え続けている。がんの対策に当たって、すべての病院でがんにかかった人のがんの情報を登録する「全国がん登録」を始め様々な取組が行われている。

## エ がんの予防

がんにかかる危険性を減らすための工夫として、たばこを吸わない、他人のたばこの煙をできるだけ避ける、バランスのとれた食事をする、適度な運動をする、定期的に健康診断を受けることなどがある。

## オ がんの早期発見・がん検診

がんになり患した場合、全体で半数以上、早期がんに関しては9割近くの方が治る。がんは症状が出にくい病気なので、早期に発見するためには、症状がなくても、がん検診を定期的に受けることが不可欠である。日本では、肺がん、胃がん、乳がん、子宮頸(けい)がん、大腸がんなどのがん検診が行われている。

## カ がんの治療法

がん治療の三つの柱は手術治療、放射線治療、薬物治療(抗がん剤など)であり、がんの種類と進行度に応じて、三つの治療法を単独や、組み合わせて行う標準治療が定められている。それらを医師等と相談しながら主体的に選択することが重要となっている。

## キ がん治療における緩和ケア

がんになったことで起こりうる痛みや心のつらさなどの症状を和らげ、通常の生活ができるようにするための医療が緩和ケアである。治らない場合も心身の苦痛を取るための医療が行われる。緩和ケアは、終末期だけでなく、がんと診断されたときから受けるものである。

#### ク がん患者の生活の質

がんの治療の際に、単に病気を治すだけではなく、治療後の“生活の質”を大切に考える考え方が広まってきている。治療による影響について十分知った上で、がんになっても、その人らしく、充実した生き方ができるよう、治療法を選択することが重要である。

#### ケ がん患者への理解と共生

がん患者は増加しているが、生存率も高まり、治る人、社会に復帰する人、病気を抱えながらも自分らしく生きる人が増えてきている。そのような人たちが、社会生活を行って行く中で、がん患者への偏見をなくし、お互いに支え合い、共に暮らしていくことが大切である。

#### 【内容の取扱い】

- ・ア～ケの内容を適宜関連付けて、理解できるようにする。また、それぞれの内容を関連付けて、一次予防（生活習慣の改善等）、二次予防（がん検診等）について理解できるようにする。
- ・現在及び将来に直面するがんに関する課題に対して、適切な思考・判断を行い、自らの健康管理や健康的な生活行動の選択ができるようにする。
- ・がん教育の二つの目標を達成するために、がんを通して健康や命のかけがえのなさに気付き、がん患者や家族などのがんと向き合う人々の取組に関心をもつとともに、健康な社会の実現に努めることができるように留意する。

#### (4) 留意点

##### ①学校教育活動全体での推進

がん教育の実施に当たっては、がん教育が健康教育の一環として行われることから、学習指導要領総則1の3を踏まえ、保健体育科を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて適切に行うことが大切である。また、家庭や地域社会との連携を図りながら、生涯にわたって健康な生活を送るための基礎が培われるよう配慮する。

##### ②発達の段階を踏まえた指導

がんに関する科学的根拠に基づいた理解については、中学校・高等学校において取り扱うことが望ましいと考えられる。その際、保健体育で疾病の予防が位置付けられている中学校3年生や高等学校1年生を対象にまとめて時間を配置したり、全ての学年で時間を確保したりするなどの工夫を行うよう配慮する。また、健康や命の大切さの認識については、小学校を含むそれぞれの校種で発達の段階を踏まえた内容での指導が考えられる。

### ③外部講師の参加・協力など関係諸機関との連携について

がんに関する科学的根拠に基づいた知識などの専門的な内容を含むがん教育を進めるに当たっては、地域や学校の実情に応じて、学校医やがんの専門医等の外部講師の参加・協力を推進するなど、多様な指導方法の工夫を行うよう配慮する。また、がん教育を通して健康と命の大切さを考える教育を進めるに当たっては、がん経験者等の外部講師の参加・協力を推進する。

その際、例えば、各教科担任が実施する授業と、専門家等の外部講師の協力を得て実施する学校行事等に関連させて指導することでより成果を上げるよう留意する。

全国モデル事業を実施する都道府県教育委員会・指定都市教育委員会（以下、「都道府県教育委員会等」という。）等は、がん教育に参画する外部講師を確保するために、それぞれの保健福祉部局や医療機関、地域の医師会などに協力を求めながら、取組を進める必要がある。ただし、これらの連携が重要であるとはいえ、授業計画の作成に当たっては、授業を行う教職員が主体となるよう留意すべきである。

### ④がん教育で配慮が必要な事項について

がん教育の実施に当たっては、授業の実施前までに以下のような事例に該当する児童生徒等の存在が把握できない場合についても授業を展開する上で配慮が求められる。

- ・小児がんの当事者、小児がんにかかったことのある児童生徒等がいる場合。
- ・家族にがん患者がいる児童生徒等や、家族をがんで亡くした児童生徒等がいる場合。
- ・生活習慣が主な原因とならないがんもあることから、特に、これらのがん患者が身近にいる場合。
- ・がんに限らず、重病・難病等にかかったことのある児童生徒等や、家族に該当患者がいたり家族を亡くしたりした児童生徒等がいる場合。

## 3 今後の検討課題

国は、平成 27、28 年度においてモデル校を中心に以下のことについて検討し、これらの成果を踏まえたがん教育について 29 年度以降全国に展開することを目指す。

平成 27 年度モデル事業「がんの教育総合支援事業」のモデル校で、がん教育を実施する際には、本報告に示された「1 学校におけるがん教育を取り巻く状況」と「2 学校におけるがん教育の基本的な考え方」を参考に取り組むこととする。

### (1) がんに関する教材や指導参考資料の作成

がん教育を全国の学校で実施し成果を上げるためには、児童生徒の発達の段階を踏まえ、科学的根拠に基づいた内容に沿って指導を進める必要がある。そのためには、映像を含めたわかりやすい教材等の開発とその活用方法等が示された指導参考資料を作成す

ることが重要である。

なお、「2 学校におけるがん教育の基本的な考え方」に示された内容は高等学校卒業時を想定しているので、高等学校以外のモデル校においては、児童生徒の発達の段階を踏まえた内容を検討し、外部講師等と連携して教材を作成する必要がある。

## (2) 外部講師の確保等

がん教育の実施に当たっては、がんという専門性の高さに鑑みて、がんの専門家の確保が重要である。例えば、「がんプロフェッショナル基盤養成プログラム」や「がん診療連携拠点病院」など広く専門機関等との連携を進めることが考えられる。

国のモデル事業を実施する都道府県教育委員会等は、それぞれの保健福祉部局や医療機関、地域の医師会などに協力を求めながら取組を進める必要があるが、その際、都道府県教育委員会等と都道府県等のがん対策担当部局が連携し、外部講師として依頼できるような医師やがん患者・がん経験者のリストを作成したり、活用マニュアルを作成したりするなど、具体的に学校での取組を支援するような体制の構築を検討する必要がある。

## (3) 研修

がん教育を推進するためには、管理職を含む教職員に対する研修と、医療関係者やがん経験者等の外部講師に対する研修の二つの面から考える必要がある。そのため、それぞれに対する研修プログラムの作成と研修を行う体制の整備について検討が不可欠となる。特に、外部講師に対する研修をだれがどのように実施するのか、教育部局と保健福祉部局が連携して研修内容や在り方を検討する必要がある。

## (4) がん教育の評価について

がん教育の評価には、教育効果を確認するための児童生徒を対象とする評価、事業の適切さを確認するための学校や教育委員会あるいは事業の企画や実施等を対象とする評価の二つの評価が必要である。

児童生徒を対象とする評価としては、がんやがん患者に関する関心、態度、考え方等の変化、がんに関する知識・理解の変化の検討等が考えられる。

学校や教育委員会と事業の企画や実施等を対象とする評価としては、がん教育の取組に対する意識の変化、関係機関との連携の特徴や課題、外部講師の活用、企画から実施・評価に至るまでの一連の適切性等が考えられる。

## (5) 教育課程上の位置付け

今後、中央教育審議会における教育課程の在り方に関する議論において、健康教育の在り方全体の議論の中で、検討する必要がある。

資料1 現行の学習指導要領及び学習指導要領解説における「がん」に関する部分

① 小学校〔第5学年及び第6学年〕

教科：体育（保健領域）

【学習指導要領抜粋】

G 保健

(3) 病気の予防について理解できるようにする。

ウ 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。

エ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。

【学習指導要領解説の抜粋】

ウ 生活行動がかかわって起こる病気の予防

生活行動がかかわって起こる病気として、心臓や脳の血管が硬くなったりつまったりする病気、むし歯や歯ぐきの病気などを取り上げ、その予防には、糖分、脂肪分、塩分などを摂りすぎる偏った食事や間食を避けたり、口腔の衛生を保ったりするなど、健康によい生活習慣を身に付ける必要があることを理解できるようにする。

エ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

(ア) 喫煙については、せきが出たり心拍数が増えたりするなどして呼吸や心臓のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れること、受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすことを理解できるようにする。なお、喫煙を長い間続けると肺がんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする。

② 中学校〔第3学年〕

教科：保健体育（保健分野）

【学習指導要領抜粋】

(4) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。

イ 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。食事の量や質の偏り、運動不足、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れは、生活習慣病などの要因となること。

ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、

社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。

カ 個人の健康は、健康を保持増進するための社会の取組と密接なかわりがあること。

【学習指導要領解説の抜粋】

イ 生活行動・生活習慣と健康

(エ) 調和のとれた生活と生活習慣病

人間の健康は生活行動と深くかかわっており、健康を保持増進するためには、年齢、生活環境等に応じた食事、適切な運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であることを理解できるようにする。また、食生活の乱れ、運動不足、睡眠時間の減少などの不適切な生活習慣は、やせや肥満などを引き起こしたり、また、生活習慣病を引き起こす要因となったりし、生涯にわたる心身の健康に様々な影響があることを理解できるようにする。

ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

(ア) 喫煙と健康

喫煙については、たばこの煙の中にはニコチン、タール及び一酸化炭素などの有害物質が含まれていること、それらの作用により、毛細血管の収縮、心臓への負担、運動能力の低下など様々な急性影響が現れること、また、常習的な喫煙により、肺がんや心臓病など様々な病気を起こしやすくなることを理解できるようにする。特に、未成年者の喫煙については、身体に大きな影響を及ぼし、ニコチンの作用などにより依存症になりやすいことを理解できるようにする。

カ 個人の健康を守る社会の取組

健康の保持増進や疾病の予防には、人々の健康を支える社会的な取組が有効であることを理解できるようにする。ここでは、住民の健康診断や心身の健康に関する相談などを取り上げ、地域における健康増進、生活習慣病及び感染症の予防のための地域の保健活動が行われていることを理解できるようにする。

③ 高等学校

教科：保健体育（保健）

【学習指導要領抜粋】

(1) 現代社会と健康

イ 健康の保持増進と疾病の予防

健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があること。喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。

## (2) 生涯を通じる健康

### イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関

生涯を通じて健康の保持増進をするには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であること。

## 【学習指導要領解説の抜粋】

### (1) 現代社会と健康

#### イ 健康の保持増進と疾病の予防

##### (ア) 生活習慣病と日常の生活行動

生活習慣病を予防し、健康を保持増進するには、適切な食事、運動、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を実践することが必要であることを理解できるようにする。その際、悪性新生物、虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病などを適宜取り上げ、それらは日常の生活行動と深い関係があることを理解できるようにする。

##### (イ) 喫煙、飲酒と健康

喫煙、飲酒は、生活習慣病の要因となり健康に影響があることを理解できるようにする。その際、周囲の人々や胎児への影響などにも触れるようにする。また、喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることを理解できるようにする。その際、好奇心、自分自身を大切にする気持ちの低下、周囲の人々の行動、マスメディアの影響、ニコチンやエチルアルコールの薬理作用などが、喫煙や飲酒に関する開始や継続の要因となることにも適宜触れるようにする。

## (2) 生涯を通じる健康

### イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関

#### (イ) 地域の保健・医療機関の活用

生涯を通じて健康を保持増進するには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所、保健センター、病院や診療所などの医療機

関及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることを理解できるようにする。

## 資料2 がん対策推進基本計画

【がん対策推進基本計画（平成24年6月8日閣議決定）抜粋】

### 8. がんの教育・普及啓発

#### （現状）

健康については子どもの頃から教育することが重要であり、学校でも健康の保持増進と疾病の予防といった観点から、がんの予防も含めた健康教育に取り組んでいる。しかし、がんそのものやがん患者に対する理解を深める教育は不十分であると指摘されている。

#### （取り組むべき施策）

地域性を踏まえて、がん患者とその家族、がんの経験者、がん医療の専門家、教育委員会をはじめとする教育関係者、国、地方公共団体等が協力して、対象者ごとに指導内容・方法を工夫した「がん」教育の試行的取組や副読本の作成を進めていくとともに、国は民間団体等によって実施されている教育活動を支援する。

#### （個別目標）

子どもに対しては、健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識を持つよう教育することを目指し、5年以内に、学校での教育のあり方を含め、健康教育全体の中で「がん」教育をどのようにするべきか検討し、検討結果に基づく教育活動の実施を目標とする。

1. 關於本會之組織及職權，應由本會訂定章程，報請主管機關備查。  
2. 本會之經費，由本會自行籌措，或由主管機關撥付。  
3. 本會之辦事處，設於本市○○路○○號。

第四條 本會之宗旨，在促進本市○○○○之發展，並維護本市○○○○之利益。  
第五條 本會之組織，由下列各款組成：  
一、理事會  
二、監事會  
三、秘書處  
四、各專委員會

第六條 本會之理事會，由本市○○○○之代表組成，其組織及職權如下：  
一、理事會由○○名理事組成，其中○○名由本市○○○○之代表推選，○○名由本市○○○○之代表推選。  
二、理事會設主席一人，副主席二人，均由本市○○○○之代表推選。  
三、理事會設秘書一人，由本市○○○○之代表推選。

第七條 本會之監事會，由本市○○○○之代表組成，其組織及職權如下：  
一、監事會由○○名監事組成，其中○○名由本市○○○○之代表推選，○○名由本市○○○○之代表推選。  
二、監事會設主席一人，副主席二人，均由本市○○○○之代表推選。  
三、監事會設秘書一人，由本市○○○○之代表推選。

第八條 本會之秘書處，由本市○○○○之代表組成，其組織及職權如下：  
一、秘書處由○○名秘書組成，其中○○名由本市○○○○之代表推選，○○名由本市○○○○之代表推選。  
二、秘書處設主席一人，副主席二人，均由本市○○○○之代表推選。  
三、秘書處設秘書一人，由本市○○○○之代表推選。